

令和7年度第2回宝達志水町子ども・子育て会議	
議件	1 開会 2 議題 (1) 生活実態調査等、ワークショップの報告について ア 子どもの生活実態調査【小中学生用】報告書 イ 子どもの生活実態調査【保護者用】報告書 ウ 若者の意識と生活に関する調査報告書 エ こども・若者の意見を聞くワークショップ【実績報告書】 (2) 宝達志水町こども計画(骨子案)について 3 その他 4 閉会
日時	令和7年9月25日(木)16:00～17:00
場所	宝達志水町民センター「アステラス」2階 研修室
出欠	出席: 福田会長、宮下副会長、辻口委員、川畑委員、吉井委員、上本委員、中町委員、 坂室委員、越田委員 欠席: 中村委員、飯貝委員
事務局	宮本子育て応援室長、岡田子育て応援室次長、町田子育て応援室主幹 水原子育て応援室保健師 浜坂学校教育課長、松浦生涯学習課長
議事	【資料説明】 2 議題 (1) 生活実態調査等、ワークショップの報告について ア 子どもの生活実態調査【小中学生用】報告書 【資料1】 イ 子どもの生活実態調査【保護者用】報告書 【資料2】 ウ 若者の意識と生活に関する調査報告書 【資料3】 エ こども・若者の意見を聞くワークショップ【実績報告書】 【資料4】 【質問事項・意見・回答事項など】 (会長) 事前質問について何かあるか。 (事務局) ここまではない。 (会長) 事前質問以外の質問はあるか。 (委員) 若者を対象とした調査の回収率が低いと思う。20～30%が一般的な回収率ではないか。事務局は回収率が低かった分析を行っているか。

(事務局)

こども計画に係る若者の調査はほとんど2割前後。今回確かに低いと思うが、LINE を使う、リマインド通知を送るなどすれば増えるという例はあった。また、回答者の傾向では大人に対し期待することが特にないと答える回答者が多いという結果があるので、あくまで回答からの推測だが、多くの人が回答したくない、しても無駄と、思われた可能性があるという推測される。

(委員)

他の自治体でもこうした内容か。

(事務局)

よそはだいたい回答は2割。今回は少ない方である。

(委員)

回答が少ないのも町の若者の傾向かと思うので、それも特徴として捉えられたい。また、ワークショップの内容は中学生とのことで13～15歳になると思うが、16歳以上のものがないのはいかがか。

(事務局)

打ち合わせ時点で中高生を企画していたが、日程も踏まえて中学生となった。幅広い年代の方だと集めるのが困難となり、成人式など、町外に出ている方が戻って来られる時期を狙って開催するなどといった、若者の意見の集め方というのは今後必要になってくると思う。

(委員)

はじめてのこども計画の調査で年齢層が偏っていることは残念。計画範囲の中では障害になるのではないかというイメージを持った。これから追加はできないと思うので、課題と認識してほしい。

【資料説明】

(2)宝達志水町こども計画(骨子案)について 【資料5】

(会長)

事前質問について何かあるか。

(事務局)事前質問は2点。

①資料5・計画案P7において、39歳以下の世帯主の該当世帯がないにも関わらず、生活保護世帯の推移を掲載した意図は。

本計画はこどもの貧困対策を含む計画であり、現状として若年層世帯主がいなかったことを示すため掲載した。

②基本理念を策定済みの「子ども・子育て支援事業計画」と同じとした理由は、併走する計画であり、次回統合を予定していることから同じものとした。

(委員)

基本理念について、質問の意図は、「子ども・子育て支援事業計画」における「子ども」の対象は概ね小学生まで。本計画では 39 歳までを対象とするので、「子どもは宝」というところが、何か違うのではないかということと、他の自治体の計画理念は対象が違うので別のものを検討されているものも見た。アンケートにも繋がるが、若者を対象としたものには見えな
いと思っている。若者が対象と分かる文言を入れた方がいいのではないか。

(事務局)

4年後に統合を予定。若者も対象にしているということで、基本理念が合わないのでは
ないかという点について、再度検討したい。意見としては理解した。

(委員)

報告書の部分で聞けばよかったが、辛辣な実態が出ている。報告書の内容は町長や議
員の目に触れているか。

(事務局)

議員には未報告。発信する際に町長決裁は取っている。

(委員)

報告は要るのでは。また、回答した保護者へのリターンはどうなっているのか。

(事務局)

回答した人に対しては、今回子どもでも見てもらえるような概要版の作成を予定している。
アンケートの結果をどう HP に出すかは要相談。

(委員)

若者の回収率の低さは、答えてどうなるのだという思いがあると思うので、答えてよかつ
た、町の施策に反映されていくということが分かれると町がよくなると思う。

(事務局)

意見を踏まえて進めていく。

3 その他

(委員)

若者で 39 歳というのはいかがか。自分が 42 歳なので、39 歳が若者と言われてもと思
う。39 歳にした意味は。

(事務局)

一般的な表現として、青年期は 25 歳まで、若者という表現の場合 39 まで、という扱い。町が決めたものではない。

(委員)

39 歳までの人が若者と言われても自分がぴんと来ていない可能性があるのでは。興味がないというか、それで答えられないのではないかと思った。

(事務局)

次回の参考としてとらえておく。

(事務局)

計画策定に対し、意見について配慮する。

また、これまで全3回の会議開催を予定していたが、今回は全4回の開催に変更したい。3回目は 11 月 20 日を予定、4回目をパブリックコメント後の1月に開催を予定したい。

以上で本日の会議を終了する。